

皆さま、こんにちは。  
府中教会、アンドレアです。

本日の四旬節第2主日は、キリストの変容の主日として特徴づけられます。実際、四旬節の旅路を歩む典礼は、イエスとともに誘惑に立ち向かい、これに打ち勝つために、荒れ野におけるイエスに従うようわたしたちを招いた後、イエスとともに祈りの「山」に登ることをわたしたちに勧めます。それは、イエスの人間としてのみ顔の上に神の栄光の光を仰ぎ見るためです。イエスは弟子のペトロ、ヤコブ、ヨハネとともに高い山に登ります。するとそこでイエスの姿が彼らの目の前で変わります。イエスの顔と服は真っ白に輝きます。そしてモーセとエリヤがイエスのそばに現れます。そして、雲が山の頂を覆い、雲の中から声がして、次のように述べます。「これはわたしの愛する子、これに聞け」(マルコ 9・7)。

変容の神秘を、イエスが歩もうとする道の前後関係と切り離してはなりません。イエスは今や決定的なしかたでご自分の使命の実現に向かいます。イエスは、復活に達するために、受難と十字架の死を通らなければならないことを十分に知っておられます。

わたしたちは、人生の試練を乗り越えるために心を照らす光を必要とします。この心を照らす光は神から来ます。そしてわたしたちにこの光を与えてくださるのはキリストです。キリストのうちには、満ちあふれる神性が、余すところなく宿っておられるからです。イエスとともに祈りの山に登ろうではありませんか。そして愛と真理に満ちたイエスのみ顔を仰ぎ見ることによって、わたしたちの心をイエスの光で満たしていただくことはありませんか。

